

① 4月29日～5月9日までネパールへ。 報告の中から

サクー状況： 村は壊滅に近く、家はほとんど崩壊。 田畑は残り、食料は自給できる。

全員テント生活であり、雨期を目前に(すでに、雨は始まっている)、ビニールシートテントが必要であろう。(映像から)

ネワール族のレンガ、土、セメントでの伝統的建物は崩れるのは簡単だった。

② 全体的に：

1. 被害は明暗にわかれる。 古い家、新しい家(鉄筋、ピラーシステム採用)との格差。被害は、弱者(貧しい人たち)側に集中。
2. 村は峠に向かうにつれ、家の崩壊が目立つ。 道は石とがれきで雨になれば、たちまち崩れてしまうだろう。
3. 政府の支援態勢が機能せず、アレンジ、データ収集していない。警察がそれをしている。個人、民間団体が動く。 ネパール人同士の地震後の助け合いは評価できる。国は、支援金として、ネパールから200億円、外国から1,800億円を充てる予定。これは、汚職、賄賂を生み出すであろう。全壊の家や犠牲者に対して支援金が出る。 ただし、時間が遅れて手に入るところもある。
4. 自治体について： 軍、BBC(自治体)があったが、今は地方選挙なく、憲法すら制定されていない。 CDO(内務省)が指示を出している。
5. 今回の地震は、都市部では、ライフラインの確保が速かった。それは、震度がそれほど強くなかったか？ 電気はソーラーパネルを含み、問題なかった。 ただ水は被害が大きくどの水も濁る状態。

③ 課題など出された話から：

支援について：

\*テント、蚊帳、水への支援必要。水は、清浄剤がカトマンズには不足(売り切れ)、手配必要。

\*雨期にともない、デング熱、赤痢などの病気への懸念ある。 水(清浄剤)、蚊帳(特に、ブタを飼うダリットたちの地区は蚊が多い)の支給必要。

\*支援方法： ①特定の集落をターゲットにするのは、無理がある。 全員に渡らない限り、けんかや奪い合いになり、そこでも、弱者には渡らない。(小倉さんの試みた13人の村での失敗で後に、自腹で1500 r sをシート代として本人たちへ手渡すことになった例ある)

\*支援金は現地のしっかりしたNGOを通して行う。個人への手渡しは確実だが、送金する場合銀行は政府からの指導が入る噂が流れる。個人宛てでも大金なら、中身のことで聞かれることがある。

\*近い将来、大地震がおこると、地質学者の間で話題になっている。 今回の揺れはそれほど大きいものでなく、次はM9以上だと予測されている。(小倉さんはこれを大変危惧されている)

\*ネパールへは、長期的支援が必要であり、確実に支援先に渡るための手立てが必要である。

\*ネパール人独自の立ち上がる力や生活への適応力がある。

以上 島本記(メモ)